

# グレート・コミッション

吉田隆・恵利子宣教師を支える会

第103号 2025年8月22日発行

発行：グレート・コミッション 吉田隆・恵利子宣教師を支える会 郵便振替：00910-3-210061 グレート・コミッション  
事務局：〒606-8274 京都市左京区北白川大堂町4-3 京都キリスト福音教会内 FAX 075-791-3488

## 再びパリに遣わされて

吉田 隆



牧師館の近くに集まる人々

今から10年前、2015年に初めてパリにある日本語教会に遣わされました。それはパリで起きた最初のテロ事件の直後のことでした。それから、パリの教会で3か月間の短期の働きを2018年まで、4年間続けさせていただきました。その後、5年余の長期でお勤めくださる牧師がパリ教会に与えられましたが、退任なされ、再び無牧となったパリ教会の働きに招聘をいただきました。

再びパリに遣わされて 吉田 隆	1-3
教会30周年記念と副牧師就任 摂理ソリス	4
宣教と霊的な戦い④ 吉田恵利子	5
ごあいさつ 置田信也	6
感謝とご報告・祈りの課題	6



パリ教会



4月、まだオリンピックの雲囲気が残っていたパリ

## 欧州社会の変化

昨年パリでは、オリンピックが開催されました。私たちが到着した今年の4月には、日本語教会があるバスティーユ広場にも大きな五輪が残っていました。

牧師館のアパートがあるクリメという地域は、パリの地下鉄ではバスティーユから16駅離れています。そこは、パリ市では北東のはずれに当たります。今回気づいたことは、以前に比べて移民の人口が増えたという印象です。黒人や中東系

の人々です。パリでは全体の2割が移民であり、その傾向は増加しつつあるとのことでした。

フランスはかつて北アフリカに多くの植民地を持っていました。ですから、そうした地域から来て長く住んでいる人々やその子どもや孫たちも少なくありません。彼らはもはや移民とは数えられません。ですから、私たちがフランス人としてイメージする白人ではない人々、この地に長く住んできた欧州人ではない人々の割合が非常に多くなっているのです。

しかも、北アフリカと中東という地域から来る人々の大多数が、イスラムの信者であることは、移民を受け入れているヨーロッパの国々で、種々の問題となっているのです。(表紙の写真は、牧師館のアパートの近くの様子)



エスカレーター故障はいつものこと

民族衣装で歩く人

## 日本への影響

妻と私が帰国する直前に、日本では参院選挙が行われました。興味深いことに、今回選挙中に関連する投稿数に占める割合の主要トピックの第一位は「外国人政策・移民・労働力」が31%を占めて1位だったのです。

今回の選挙で「日本人ファースト」などを訴え、参院選で「台風目」となったのは参政党でした。ここまで支持を集めた理由は、「外国人政策への共感」であったとされています。

フランスの社会問題と日本が直面している問題が同じである、と言っているのではありません。しかし、外国で起こっている戦争や民族問題が、その地の問題としてだけに留まらず、大きく広い地域に波及している、ということを知らなければなりません。

## イランとイスラエル

6月13日、イスラエルがイランを攻撃しました。中東のイランは北朝鮮から核兵器と核開発を取り入れ、北朝鮮に財政的な援助をしていると言われています。しかも、イランはロシアとの強い関係もあり、北朝鮮は日本の隣国なのです。ですから、刻々と変わる世界情勢に日本だけが無関係であることはあり得ないのです。

## 日本語教会の働き

3か月は、多くのプログラムの中で感謝のうちに進んで行きました。

### ① 洗礼式

渡仏前から、今回は洗礼志願者二人が居ることを聞いていました。二人ともがCSの中高生クラスからです。

S・Sさんは、私たちが10年前に奉仕した時には、幼少科の小さなお友だちでした。ずっと日曜学校に通い続けて、イエス様を信じる信仰告白をして、今回の



洗礼式後の集合写真

受洗となりました。A・Iさんは、クリスチャン・ホームで育ちました。お父様のお仕事の関係で、ブラジル、ペルー、日本などでの生活を経験し、今パリに住んでいます。

こうして若い人々がイエス様に従う決心をし、洗礼を受けることはパリ教会にとって大きな喜びです。これに続いてS・Sさんの妹さんも受洗を決意しましたので、秋に水のバプテスマを受けることと思います。

### ② 能登震災支援チャリティー・コンサート

クリスチャンのユーオディア管弦楽団でコンサートミストレスを務める蜷川いづみ氏が、能登震災の支援のために、パリでコンサートを企画してくださいました。このコンサートには特別にフランツ・リストの子孫でピアニストであるミヒヤエル・アンドレアス・ヘリンガー氏が招かれ、豪華で特別なコンサートとなりました。

ヴァイオリン奏者の蜷川氏は、パリに留学中にこの教会に導かれ、パリ教会の受洗者第一号になった方でもあります。日本語で発行されている新聞に掲載された宣伝を見て集ってくださった方々もいらっしゃいました。



能登支援コンサート

### ③ モグモグ昼食会

アンテオケ宣教会の山中敬子姉が、初めての欧州旅行の日程の中にパリ教会を含めてくださり、牧師館を会場に、おにぎらずと豚汁を作ってくださいました。



山中敬子姉のモグモグ昼食会

### ④ 求道者の方の葬儀

5月の家庭集会で久しぶりに顔を合わせた求道者のTさんは、80歳を過ぎていますが、毎日マンションのプールで泳ぐのが楽しみだと話していました。とこ



Tさんの葬儀で賛美を歌う

ろがそのプールで沈んでいるのが見つかり、救急車で搬送された、との知らせが入りました。

しばらく意識のない状況が続き、教会員の間で祈りが捧げられました。そして生命維持装置がはずされる前に、お会いする機会が特別に与えられました。「たとえ意識がなくても、私たちが語りかける言葉を魂は聞いている」と言われます。息子さんご夫妻と4人だけが病院のICUに入ることが許され、私たち夫婦と、Tさんと親しかった2人の教会員がそこに立ち合いました。息子さん夫妻の前で、聖書のみことばを語り、聖歌を歌いました。生命維持装置がお医者さまの手ではずされました。普通ICUの中では歌を歌ってはいけませんが、神様のお取り計らいにより特別にさまざまなことが許され、賛美の中Tさんを送り出すことができました。

葬儀は無宗教で行われましたが、パリ教会からは13人が葬儀にかけつけました。そこに集った方々を前に、Tさんの最後の瞬間のお証をして、教会員で賛美を2曲歌いました。

上記は、忠実に続けられているCS、礼拝、対面とZoomの祈り会、カレー会、家庭集会、ベレア（聖書研究）会以外の特別な機会についての報告です。普段牧師がいない無牧の状況にありながら、役員の方々を中心に教会員のみなさんが主を愛し、新しい魂のために祈り、忠実に仕えていらっしゃる姿に大きく励まされます。



カレー会

恵利子は、CSの教師としてメッセージや、3教会合同礼拝での賛美リードの奉仕をさせていただいたり、女性の交わり会での話をしたり、さまざまな機会に料理やケーキを作って、教会の方々に喜んでいただきました。

パリ教会のみなさんは、私たちの奉仕を温かく迎え、お支えくださいました。また日本の支援者の方々にも直面している問題や状況をお知らせしてお祈りいただきました。主が執り成しの祈りにお答えくださったことを感謝し、報告させていただきます。

私が現在スイスで仕えている教会、アガベ・クリスチャン・センター（以下アガベ）は、今年2月に創立30周年を迎え、6月にゲストスピーカーをお迎えしてアガベの特別記念集會がもたれました。

アガベは、アメリカ人女性宣教師のカーレン・セーダーグレン師（以下パストーラ）と、6人のリーダーたちによって創設されました。私の夫ブライアンとの両親も、創設時から教会のリーダーとして神様に仕えています。

パストーラはスイスに来る前、フィリピンで聖書学校を創設し、フィリピン人の教役者訓練に励んでいました。そのため、フィリピンの公用語であるタガログ語に長けています。

30年前、スイスでは幾人かのフィリピン人のグループに福音が伝えられ、彼らは救われ、その小さな群れは牧師を必要としていました。この無牧のグループを助けるために、パストーラがスイスに送られことをきっかけに、英語のインターナショナルチャーチ、アガベ・クリスチャン・センターが始まりました。

アガベの歴史を振り返ると、神様の素晴らしさを讃えずにはいられません。30年たった今でも、開拓当時と変わらず、同じ主任牧師と6人のリーダーたちが、教会の牧會を支えています。もちろん、これまでの間に仲違いや意見のぶつかり合い等を経験したことでしょう。けれども、「人間的な違いを理由に、主から命じられた使命を投げ出すことはしない」と30年前に誓い合い、今日に至るのです。このような素晴らしい証しの上に建てられた教会に、私は11年前に結婚によって導かれました。

そしてこの記念すべき年に、夫ブライアンと私はアガベの副牧師として仕えることになりました。5月4日の聖日に、副牧師任命式がもたれ、パストーラとリーダーたちの接手を受けました。

宣教師である両親に育てられ、小さい頃から自分もいつか宣教師になりたいと願いつつも、本当に自分は宣教師になるように神様から召されているのか、十代後半から神様に問い続けていました。はっきりと答えはわからないまま、アメリカの聖書学校に行き、そこで夫ブライアンと出会い、彼の生まれ育った国である



スイスで暮らすことになりました。何もかも、自分の思い描いていた人生図とは全く違うものとなっていましたが、聖書学校を卒業する頃には、自分の使命は「働き人の助け手となる」ことだと確信するようになりました。

両親は「小さなことに忠実である」ことの大切さを、子どもの頃から教え続けてくれました（ルカ16章10節）。ただ、目の前に与えられたことに誠実に取り組み、忠実であり続けることを自分に言い聞かせ、とにかく牧師がより牧會に専念できるようにするにはどうすべきか、を考えながら奉仕を続けていました。すると、自分の想像とは全く違うタイミングで、副牧師として教会に仕えることになったのです。

神様のご計画は、本当に計り知れません。十代の頃に参加したユースキャンプで、どなたかが「人生は何万枚ものピースがあるパズルのようだ。一つ一つのパズルのピースだけを見ていると、どんな絵になるかわからない。けれども、そのパズルが埋め合わさった時に初めてその絵の美しさがわかる」というようなことをおっしゃっていました。それはまさしく神様のご計画の図を言い当てていると思います。神様は、占いのような方法で人生がどうなるかをお教えにはならない。けれども、神様に焦点を当て、信仰をもって忠実に一歩一歩前進していくことによって、人生を見返した時に、それは美しいと思わされるのです。

どうか、まだまだ未熟な私たちのために祈りいただけると幸いです。よろしくお願い致します。

このシリーズでは、30年前に香港に遣わされた時に起こった霊的な戦いについて、書かせていただいております。過去3回の記事は前号をご参照ください。

香港で第4子を出産して、退院して自宅に戻りました。けれども、その後も体調が悪く、なかなか回復しません。医師はすぐに良くなるといい、何度も受診するのですが、悪くなっていく一方です。

3か月経って食事が喉を通らなくなり、周りの方々も心配していただきました。そこで、外国人も受診する設備の整った病院を受診することにしました。主人に子どもたちを見てもらい、ひとりで病院に行くことになったのです。異国の地で一人で受診するのは不安が伴いました。検査をすると、なんと子宮に大きな胎盤がまだ残っていることがわかりました。すぐに手術が必要とのことで、その日のうちに入院して手術を受けました。

医師から、退院後は安静に動かずに寝ているようにと言われました。緊張の中帰宅して、疲れ果てて横になって寝ていると、3歳の息子「宣教」とお風呂に入っていた主人が大声で「助けて!」と叫ぶのです。お風呂に行ってみると、トイレの水道管が破裂して、主人はそれを両手で押さえて止めようとしていたのですが、すごい圧力ですから、消火栓が破裂したように水しぶきと共に、どんと水があふれてきています。

しかもその水道管はトイレの水を流すためのもので、香港では海水が使われていたのです。古くなった水道管が錆びていたのでしょう、何かの刺激で破裂したのです。

大急ぎでタオル類や、ありとあらゆるもので土嚢の

代わりに水を堰き止めるためのものを作り、お隣の香港人の家に助けを求めました。その方は足の裾をめくって、ゆっくりとあふれる水の中を歩いて状況を理解し、管理局に電話をしてくださいました。管理局から駆けつけた人もゆっくりと同じようにお風呂場を覗き、戻って行きました。「早く水の元を止めてください!」とお願いしましたが、しばらくしてようやく水は止まりました。その間、主人はずっと湯船から身を乗り出した状態で、両手で水道管を押さえ続けていましたが、水は廊下や外にまであふれ流れています。子どもたちに手伝ってもらい、床上浸水状態の我が家の水を汲み出す作業を、ヒリヒリする冷たい海水につかりながら、長い時間かかって行いました。

手術後、安静にするどころか、家の中で冬の冷たい海水につかり、身体中が芯まで冷え切ってしまいました。家の中で水に浸かったものは全て壊れてしまいました。高い棚の上には、観葉植物のポトスをはわせていましたが、水に浸かっていないのに、空气中に舞上がった塩害で、美しく心を和ませていた観葉植物まで、いっせいに枯れてしまいました。それを見た時、張り詰めていた心が萎えてしまいました。

そういうわけで、その後も次々と問題が起こり体調不良が続くことになりました。けれども、のちに「普通は死んでもおかしくない身体の状態なのに、よく生きていましたね。」と医師に言われました。

主の奇跡的なお守りと、祈りお支えくださった皆様に感謝いたします。

最初の2年間は、特に奇妙なことや困難なこと、大小の試練が次から次へと押し寄せて来るのでした。

## 吉田恵利子クリスマス個展 VI

2025年 **11月29日(土)~12月7日(日)** 11時~17時 (金曜日はお休み)

ミニコンサート **12月4日(木)**



ギャラリー **楽心庵** & Café IORI 〒520-0113 滋賀県大津市坂本6丁目26-45 TEL 077-548-8554

## ごあいさつ

この度、グレイト・コミッション吉田隆&恵利子宣教師を支える会の委員長に就任することになりました置田信也です。これまでお二人を支え励まして来てくださった支援教会の先生方や兄弟姉妹にあらためて感謝いたします。世界が大

きく変化している中で、吉田宣教師ご夫妻は祈りを通して神様に導かれ、働きを続けて来られました。宣教の働きはまだ続きます。ぜひこれからも、お二人をご支援くださいますように、よろしく願いいたします。

京都キリスト福音教会  
牧師 置田 信也



## 感謝とご報告

- 吉田隆・恵利子宣教師は、4月23日から7月22日まで、フランス・パリのパリ プロテスタント日本語キリスト教会での牧会・伝道の働きのために遣わされ、無事帰国致しました。(本文報告 P1-3)
- 吉田宣教師の長女摂理姉は、夫ブライアンと共に、仕えているアガペ・クリスチャン・センターにおいて、2025年5月4日に副牧師として任命され按手を受けました。(本文 P4)
- 2024年までグレイト・コミッション吉田隆・恵利子宣教師を支える会をリードし、長い間委員長としてご奉仕くださった中坊久行牧師(木幡キリスト福音教会)が退任なさいました。これまでのお働きを心から感謝致します。新たに、置田信也牧師(京都キリスト福音教会)が委員長に就任してくださいました。
- 吉田隆師は、11月4日から7日までネパールで開催されるPAM(ペンテコステ・アジア宣教会議)に理事として出席します。(前後の詳細は未定)
- バングラデシュに教会堂建設は、現在2つ目が建設されています。3つ目の会堂建設に必要な献金がまだ満ちていません。会堂を建設するための献金が与えられるようにお祈りください。(このためにお捧げくださる方は、振替用紙に「バングラデシュのため」とお書き添えください。)
- 2025年11月29日から12月7日まで、第5回吉田恵利子クリスマス個展が滋賀県大津市坂本のギャラリー楽心庵で行われます。
- 2025年7月末日の時点で、グレイト・コミッションの会計残高が約50万円の赤字となっています。お支えいただけますと幸いです。
- 吉田隆 & 恵利子宣教師の宣教30周年記念と結婚40周年を兼ねてイスラエル聖地旅行の計画が立てられています。しかし、イスラエルの情勢不安、更に円安のために聖地への旅行が難しく、現在のところ、延期されています。戦争の早期完全終結、政情の安定と旅費の予算が満たされますように。(このためにお捧げくださる方は、振替用紙に「聖地旅行のため」とお書き添えください。)

## 祈りの課題 (以下の祈り課題を覚えてお祈りいただければ幸いです。)

- 吉田隆・恵利子宣教師は、2025年9月9日から22日まで香港に遣わされます。健康が守られて奉仕を全うすることができますように。